

次期教育大綱の策定について

荒尾市教育大綱

1. 基本理念

郷土を愛し 未来を創る あらおの人づくり

我が国では、人生 100 年時代や超スマート社会（Society5.0）の到来など、教育を取り巻く社会情勢は急速に変化しており、今後の社会の予測が難しくなっています。これからの時代においては、一人一人が、生涯にわたって質の高い学びを重ね、それぞれの立場や分野で成長し輝き続ける力や、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造する力などを身に付けていくことが重要です。

また、予測困難な社会を迎えるからこそ、子供から大人まで、我が国や郷土の豊かな自然、伝統、文化に親しみ、主体的な学びによって視野を広げ、知識や経験を分かち合い、自らの人生を切り拓くことのできる力を高め合うことで、人生や社会を豊かにしていくことが求められています。

そして、持続可能な社会づくりの観点からも、家庭・地域・学校が連携・協力し、地域社会全体で心豊かな子供たちの成長を支えていくことが一層重要となってきます。

こうした中、第 1 期教育振興基本計画期間が令和 3 年度で終了し、第 2 期計画の策定を行うにあたり、これまでの教育大綱で掲げた「人とふるさとを愛し 志高く 自立する人づくり」という基本理念を継承しつつ、新たな教育大綱の下、さらなる本市の教育の振興を図る必要があります。

そこで、本市の一貫した基本姿勢の継続性を示すと同時に、荒尾市民一人一人が、郷土の自然、伝統、文化を学ぶことで郷土愛を育み、自分の可能性を信じて夢に向かって自らの人生と、荒尾の未来を切り拓き、持続可能な社会の創り手となってほしいという思いを込めて、「郷土を愛し 未来を創る あらおの人づくり」を新たな教育大綱の基本理念とします。

2. 基盤となる考え方

教育大綱の実現に向けては、超スマート社会（Society5.0）を見据え、次の3つを基盤となる考え方として、教育振興基本計画に掲げる教育施策を展開していきます。

①誰一人取り残さない教育の推進

義務教育は、全ての児童生徒の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎や、社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的としており、人材育成の基盤となるその役割は極めて大きいものです。

児童生徒が多様化し、様々な課題を抱える中であっても、義務教育からは誰一人取り残さない、ということ徹底する必要があります。またそれは、SDGsの考え方とも意を同じくしています。

本市では、この考え方を基盤として、施策の展開に活かしながら、いじめ、不登校問題をはじめ、様々な事情を抱える多様な子供たちが、学校教育の外に置かれてしまわないよう、子供たちが楽しく通える魅力ある学校づくりや、居場所づくり、多様な子供の状況に対応した支援・指導体制の確立を推進します。

②教育DX（デジタル・トランスフォーメーション）の加速化

本市では令和2年度、国のGIGAスクール構想に基づき、児童生徒一人一台の端末整備をはじめ、大規模な教育ICT環境の整備を行いました。

今後は、整備したICT環境を活用して、教育DX（学校がデジタル技術を活用して、カリキュラムや学習のあり方を革新するとともに、教職員の業務や組織、プロセス、学校文化を革新し、時代に対応した教育を確立すること）を加速化し、子供たちの「主体的・対話的で深い学び」や、「誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学び」の実現に向けた取組の充実が求められています。

また、併せてICT活用による校務の効率化、働き方改革を進めることで、教職員が児童生徒と向き合う時間をより多く確保できるようにすることなども期待されています。

「教育DXの加速」を基盤的視点として、教育分野の様々な課題についてDXによる革新をめざし、教育活動の質の向上を図ることを推進します。

③教育施設環境の充実

学校は児童生徒の学習及び生活の場として、また、教職員の働く場として良好な環境を確保するとともに、障がいのある児童生徒にも配慮しつつ、防災性、防犯性などの安全性を備えた安心感のある施設環境を形成することが必要です。また、「人生100年時代」を迎える中において、生涯学習の重要性が一層高まっています。そして、誰もが生涯を通じて学び、その成果を社会に還元する社会を構築するため、活動の拠点となる活動施設の環境整備が重要となっています。

子供が安全・安心な質の高い空間で学び、生活できる教育環境の整備を行うとともに、生涯学習活動の活性化に重要な役割を果たす生涯学習活動施設の充実に取り組みます。